

皆の広場

素人の歴探考④

「出雲探索記録」

シ18 永野 徹

○出雲探索行程表

第1日 8/26(木)	(8:00)	宝塚IT	中国道	(10:30~11:00)	森山・昼食	米子道	(11:45)	米子・安来IT	R45	12:00~12:30	〇能義神社	近道	12:50~13:10~13:50	〇仲仙寺古墳	R9	14:05~4:20	〇雄鷹神社 (黄泉の坂)
				14:50~15:40	〇松江城	R432	16:00~16:30	〇神魂神社		16:40~17:30	〇風土記の丘 〇岡田山古墳 〇八重垣神社	移動10分	17:40~18:20	〇国庁跡 〇国分寺	移動30分	18:50	玉造温泉
																	(第1日・宿泊)
第2日 8/27(金)	8:00~8:30~8:40	玉造ホテル発 〇玉造資料館	県道~R53	9:00~9:30	〇熊野太社	R53~R24	9:30~10:10	〇須我神社	R24	11:00~11:20	三刀屋	R176~R272	11:50~12:30~13:45	〇言谷たたら館 〇昼食			
				14:00~14:30	〇須佐神社	R39~R431	16:30~17:00	〇出雲大社		17:10~18:00	〇日野御崎神社 〇日御碕燈台	20分	18:20	〇稻佐の浜	20分	18:40	出雲ホテル
																	(第2日・宿泊)
第3日 8/28(土)	8:20発	出雲ホテル	R9	8:50~9:10	〇大念寺古墳	R9	9:30~11:00	〇荒神谷遺跡	R23~R431	11:55~12:30	〇佐太神社	R431	13:30~14:30	昼食 〇境港			
				15:15~15:50	〇美保神社 〇美保燈台	R2・R30・R431	16:10~17:30	〇大山寺 〇溝口IT	高速	18:00~19:00	落合IT (夕食)	高速	21:00	宝塚IT			

○出雲探訪地図



第1日 (出雲東部探訪)

- (8/26) 初日平成22年8/26(木)は早朝に宝塚を出発して出雲東部(安来～松江方面)を探訪しました。主な訪問先は行程順に次のとおり。
晴れ
・能義神社～仲仙寺古墳・造山古墳～揖夜神社～松江城～神魂神社
～風土記の丘・岡田山古墳～八重垣神社～国庁跡・国分寺跡

(1-1)能義神社(のぎじんじゃ)



(能義神社)

- 主祭神:天穂日命(アマノヒ)
本殿 :大社女造り(現存1613年)
(メモ)
・アマノヒはアマテラスの第2子で出雲国造家の祖神
・アマノヒは出雲系天孫降臨の元祖
・出雲四大神にも拘らず神社名表示なし
最初の訪問先で探すのに一苦労
※お寺のように檀家がなく賽銭だけの神社は有名でないと維持管理が厳しいことが推察される

(1-2)仲仙寺古墳



(仲仙寺古墳)

- ・四隅突出古墳:古墳時代前期
4世紀初、出雲独特の四隅突出古墳

(造山古墳)

- ・隣接する造山古墳は大陸影響の方墳と出雲独特の前方方墳(6C末)とが混在

(1-3)揖夜神社(いやじんじゃ)



(揖夜神社)

- ・意宇六社の1つ、記紀の黄泉比良坂
・イザナギが黄泉の国から逃げ帰って来た「黄泉の坂」の出口がある所との伝承あり

(1-4)神魂神社(別称:大庭大宮)



(神魂神社)かもすじんじゃ

- 創建 :天穂日命が降臨して創建の伝承
主祭神:イザナミ、イザナギを合祀
神殿 :現存最古(1346)の大社造り
(メモ)
・国造就任(神火相続おひつぎ)式と新嘗祭が執行された由緒ある神社
・天穂日命が大国主に国譲りを説得のため降臨時に使用されたと言う神釜伝承がある

(1-5)八重垣神社



(八重垣神社)

創建 : 神代
 主祭神: スサノオ、クシナダ姫
 神殿 : 鳥居、随神門、拝殿、本殿が一直線 (メモ)
 ・スサノオとイナダヒメは八俣大蛇を退治後、須賀宮で過ごし、その後イナダヒメの避難地であるこの地に宮を造り過ごされた
 ・風土記では佐久佐社(サクサヤシロ)とされスサノオの子アオハタサクサヒコの社があった場所とされている

(1-6)出雲国庁跡



国庁は意宇川流域の意宇平野の中心森の部分には出雲国総社の六社神社

(1-6)出雲国分寺跡

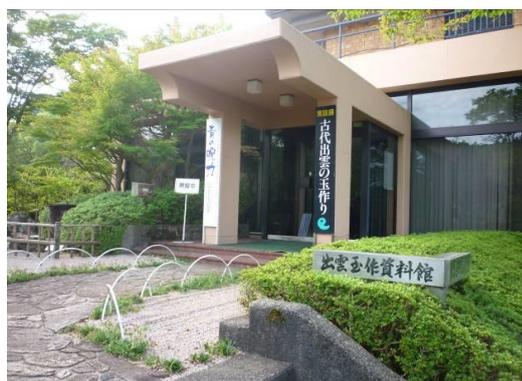


国分寺は南門・中門・金堂・講堂・僧坊が一直線に並ぶ(ここできれいな虹に遭遇)

第2日 (出雲中央部～西部探訪)

(8/27) 2日目、平成22年8/27(金)は早朝に玉造温泉を出発して出雲南部(須佐)から出雲大社方面を探訪。
 晴れ
 ・玉造～熊野神社～須我神社～三刀屋～菅谷たたら～須佐神社～出雲大社～日野御崎神社～稲佐の浜

(2-1)出雲玉造資料館



(玉造資料館)

早朝に訪問したが団体の予約があり、我が国、唯一の玉造り資料館を見学。
 出雲は国内でも有数の玉の生産地で花仙山周辺に多数の玉造遺跡がある
 古墳時代から平安時代に至る工房跡があり玉は律令時代儀式の道具として使われ忌部氏と関係が深かったようです

(2-2)熊野大社(出雲一宮)



(出雲熊野大社)

創建：齊明天皇5年(659)に造営命
主祭神：クシキヌ神(別称スサノオ命、イザナギ
の愛児カプロノ命)、農耕・豊饒の神
神殿：大社造り、本殿(男造り)、拝殿、
右(稲田姫)と左(イザナギ)神社

(メモ)

- ・鎮火殿(サンカデン)の神火神水式で国司が神饌を食べ永遠の命を得る世継式
- ・出雲・熊野とは聖地を表わす(神=熊=雲)スサノオ命は八俣大蛇を退治した後、熊成宮に、熊成宮=元宮ケ成として熊野大社は杵築大社(出雲大社)より神階が上位

(2-3)須我神社



(須我神社)

創建：スサノオが八俣大蛇退治後に建立
主祭神：スサノオ、イナダヒメ、ヤシマミコ
神殿：本殿2間四方、大社造りで

(メモ) 出雲大社と同じ

- ・大蛇退治後にイナダヒメと共にこの地に来、「気分がすがすがしくなった」と言って日本初の宮殿を建て日本初の和歌を詠じた所
- ・「八雲立つ、出雲八重垣、妻籠みに、八重垣つくる、その八重垣を」
- ・スサノオの終焉の地でもある

(2-4)三刀屋おろち公園



(三刀屋・大蛇公園)

- ・三刀屋で斐伊川は上流2つの川が合流船交通の要所であり昔から栄えていた
- ・八俣大蛇退治の場所に特定された所は無く斐伊川上流の多数地点と解釈
- ・従って、この中流域に八俣大蛇公園が設置されているが場所的には看板も見えにくく探すのは大変である

(2-5)菅谷たたら館(菅谷高殿)



(菅谷高殿)

- ・鋼のたたら生産について、施設館員の詳細な説明を聞くことができた。農作業に支障のない冬場、全工程を4日サイクルで(一回約2トン)熱環境で粗鋼生産をする
- ・出雲は良質の鉄分を多く含む砂岩を産出し最近まで鉱業生産されていた
- ・弥生時代後半に製鋼技術が大陸から伝わり鉄生産特に刀剣等の鋼として出雲砂鉄は良質で有名
- ・製鋼には、砂鉄、木材、水、風等の資源と自然の条件が全て合致した場所として出雲は太古よりたたら最適地であった

(2-6)須佐神社



(須佐神社)

- 主祭神:スサノオ、稲田姫、アサツチ、テナツチ
神殿 :本殿(大社造り)、神楽殿(出雲(メモ) 神楽、念仏踊り)千木の高さ12m
・出雲風土記ではスサノオが「この国は小さくても良い所」とこの土地を大須佐田、小須佐田と名付け屯倉となる
・須佐の地は僻地であるが、岡山の吉備氏の侵入、安芸から秦氏、蘇我氏の出雲神門の入口拠点
・スサノオは「須佐の男」と解釈されているが風土記では逆に土地に自分名前を命名

(2-7-1)出雲大社



(出雲大社:旧杵築大社)

- 創建 :神代、明治4年出雲大社に改名
主祭神:大国主(オオナムチ)、注連縄13m、
神殿:大社造(男造、右回り神座、2間四方)上古(32丈96m)平安(16丈)現在(8丈24m)
神殿の高さ順は(雲太、和二、京三)と呼ぶ
神紋 :二重亀甲剣花角紋
・出雲は国ツ神の総代で10月は神在月
・天穂日命が祭主で縁結び、福の神
・天穂日命の御子アメヒナトリが杵築に降臨
・オオナムチの国造偉業を讃えかみスビが造営
・大国主は国譲りで天宮と同じ宮殿を要求

(2-7-2)出雲大社



(出雲大社:本殿)

- ・平成25年遷宮、本殿大屋根を改修中
- ・出雲大社系は二拝四拍一拝で二拍多い
- ・天穂日命を祖とする出雲国造家が祭祀
- ・平成12(2000)に巨大な宇豆柱(1.4M*3本束)を発掘
- ・東隣に出雲古代歴史博物館があり充実した展示館である

(2-8)日野御崎神社



(日野御崎神社)

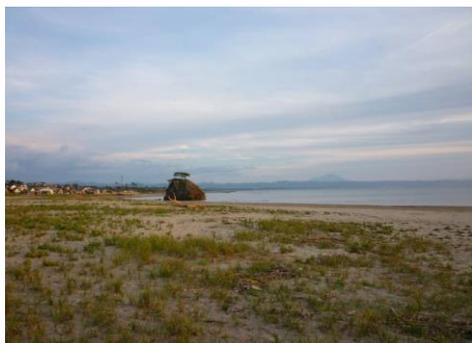
- 主祭神:アマテラス大神、スサノオ尊
神殿 :権現造り、海系の龍蛇神社(メモ)
・出雲風土記で上宮はスサノオを祭る美佐伎社、下宮はアマテラスを祭る権現神社
・御前の浜では和布(ワカメ)神事が行われる
・全体的に色鮮やかな神社
・赤松と黒松?の夫婦松が印象的

(2-8-2)日野御崎燈台 ・風土記神話でオミヌス神が最初に国引きした半島の燈台



(上部写真)杵築の日御崎燈台

(2-9)稲佐の浜



(左写真) 稲佐の浜
・アマテラスの使者タケミカヅチが稲佐の浜でオオナムチに国譲りを迫ったとの伝承

第3日 (出雲半島部)

(8/27) 3日目、平成22年8/28(土)は早朝に出雲市市を出発して出雲市内から
晴れ 出雲北部(半島)方面を探訪。
・出雲市～大念寺古墳～荒神谷遺跡～佐太神社～境港～美保神社
～美保の関

(3-1)大念寺古墳



(今市大念寺古墳)
・出雲市内にある古墳
・出雲で珍しい前方後円墳であり侵入支配者の古墳？
・古墳時代後期(6世紀)頃の前方後円墳
・出雲西部・神門臣？の前方後円墳 (吉備臣の影響か)
・全長100mで出雲では最大級、
・日本最古の版築ハンチク工法
・石室が前後2室あり特色がある。一見凝灰岩の石棺はコンクリート造りと見間違ふ

(3-2-1)荒神谷からの仏経山



(荒神谷から見た仏経山)中央後方の山
・大賀ハスの植わっている荒神谷遺跡から出雲西部の神門の神奈備山・仏経山
・同じ場所から銅剣と銅鐸が大量に出土
この遺跡で何の目的で埋葬されたのか

(3-2-2) 荒神谷遺跡



(荒神谷遺跡)

- ・弥生後期遺跡(2世紀半)で銅剣(358)、銅矛(16)、銅鐸(6)が出土。九州銅剣文化と近畿銅鐸文化の両方が同じ場所から話題を投げる
- ・出土の数も膨大で、これまで殆ど出土しなかった出雲だけに、弥生から古墳時代にかけて一躍出雲の古代勢力がどうだったのか疑問を呈しこれなら大和が国譲りを要求したのも道理か？

(3-3) 境港と大山



(境港と大山)

- ・風土記国引き神話の東部の支柱と記載された大山
- ・NHK朝ドラで評判の水木しげるの出身地・境港は漁港として全国的に有名であるが、今年はゲゲゲの鬼太郎祭で人口2万弱の都市が半年で200万人近い観光客で賑わっている。

(3-4) 佐太神社(出雲二の宮)



(佐太神社)

主祭神：佐太大神(猿田彦は方便か?)
北殿(アマテラス)、南殿(スサノオ)は逆大社造
神殿：大社造りの三殿並列式(本殿3社)

- ・神奈備山は朝日山、佐太とは岬の意味
- ・カミスビの御子キサガイが加賀潜戸で佐太大神を誕生したと言う(島根半島の租神)
- ・祢宜の話では裏山に比婆山からイザナミの御霊を取り寄せ埋めてあり、加賀潜戸の伝承は生命の再生(あの世とこの世の再生移動)と関係があるらしく、中世における神仏混合思想の影響

(3-5) 美保神社



(美保神社)

主祭神：(左殿)美保津姫(右殿)事代主神
神殿：二殿連棟大社造り(美保造り)
(メモ)

- ・美保津姫はカミスビの娘神で大物主の妃高天原から稲穂を持ち帰られた農耕の神
- ・コソロシ系のえびす3000社の総本山(蛭子系の総本山は西宮えびす)
- ・事代主は叡智・誠の守神、大国主の第1子福徳円満と漁業の租神、海上の守護神

(3-6)美保関・燈台



(美保関・燈台)

- ・風土記では能登半島の珠洲から国引きした土地
 - ・美保関は国引き由縁の弓ヶ浜と繋がる
 - ・大国主がスクナヒコを迎えられた所でもある
 - ・美保の崎でコシロヌシがオオナムチの国譲りを促す。
 - ・関の5本松
- (天橋立、城崎温泉、鳥取砂丘、皆生温泉、美保の関)

(おわり)